共同制作

障害者は表現する

絵画などの芸術作品で表現活動を行っている障害者がいる。鑑賞の対象としてだけでなく、商品のデザインに採用されるケースもある。全身を使う演劇もひとつの作品。彼・彼女らの活動はあまり知られていないが、福岡で接することは難しくない。そんな作品に多くの人が触れることが、障害者が暮らしやすい社会に向けての力になる。

2014年1月に、障害者の表現活動を発表する催し「Lifemap（ライフマップ）2014」が福岡市内で開かれる。主催は特定非営利活動法人（NPO法人）まる（福岡市南区）、福岡市、福岡市文化芸術振興財団（同博多区）。オーディションで選ばれた出演者が演劇とダンスを披露する。障害者ではないプロが脚本や振り付けを担当する共同制作だ。

ライフマップの始まりは、同財団が04年に始めた障害者の芸術作品を紹介する企画展。当初は「エイブル・アート事業」の名称で海外を含む有名障害者アーティストの作品を展示していた。

福祉作業所を運営しているまるが07年からライフマップと名付けて企画運営し、福岡を中心とする九州の作家紹介に力を入れ始める。7回目となる今回は、作品を共同で作り上げていく過程を重視。障害者の身体表現と健常者の音楽や映像を組み合わせることも計画する。

ライフマップでは今後も共同制作を実施する考え。関係者は「ダンサーの卵などとのコラボができないか」と、さまざまな形の連携を期待する。

▶工房まるが商品展開するカレンダー

自由な創作

NPO法人まるは、運営する「工房まる」で障害者の作品を製品化している。工房は97年に福祉作業所として開設。08年からは障害者自立支援法に基づく生活介護と就労継続支援を行っている。

絵画を中心とする創作活動を始めたのは99年。それ以前は、形があらかじめ決まっている木工品などを作っていた。すると通所者から「同じ物を作り続けるのは飽きる」との声が上がったため、自由に絵を描くことを始める。まるの樋口龍二代表理事には「学芸会のようなアートにはしたくない」との思いがあった。そのため展示や商品化を通じ、作品を工房の外に積極的に出す。

障害者の絵の魅力を樋口代表は「完成してないところ」と語る。技巧を凝らしたデザインや洗練されたデザインがあふれる現代では、率直な思いがあふれる筆遣いや色彩が新鮮に映る。

工房から生み出される作品への評価の高まりは商品展開が示している。その代表がカレンダー。初めて作ったのが00年版でCDケース大の500部。通所者の家族を通じて売った。

その後、全国に販売ルートを持つ文具業者の目に留まり、そのルートを通じて販売されるようになる。14年版は1800部を製作する。

絵が商品の柄に採用された事例は手帳、マグカップ、CDジャケット、Tシャツ。絵本の表紙や挿絵にも使われた。伝統工芸「博多織」のサヌイ織物（同西区）とは、ネクタイや財布、風呂敷などを作っている。直線を使った柄が多い博多織で曲線が多用されるデザインは珍しい。

12年には似顔絵を入れた名刺の製作を始めた。パソコンを使ったものが人気の一方で「似てないことを喜んで使っているユーザーもいる」（樋口代表）という。名刺は写真を送って注文できる。ただ、まるとしては直接会って似顔絵を描くことを希望する。「コミュニケーションが良い刺激になって絵の幅が広がるかもしれない」（同）からだ。

今後は、オリジナルデザインの文具を作りたいという。クリアファイルやテープ、ノート、メモ帳など次々とアイデアが浮かんでいる。絵は数千枚のストックがあり、入所者は日々創作している。デザインが枯渇する心配はない。

▲9月にだんだんラボが実施した子供とアーティストが一緒に描くイベント

子供と一緒に描く

障害があるアーティストと活動している学生がいる。だんだんラボ（同南区）は九州大学芸術工学部の学生が運営する団体。10年にはプレゼント用の段ボール箱「JOY BOX」を製作。福岡市内の主要郵便局や百貨店で販売した。

11年には、折り方次第でお年玉袋やブックカバーになる和紙「だんだんオリカタ」、12年には透明の瓶に絵を描いた「だんだん瓶箋（せん）」を企画開発し、期間限定で売り出した。瓶は2週間で378本が売れた。今後も商品化を続ける考えで「従来の福祉のイメージを変えるようなデザインワークを展開していく」という。

13年9月には「体験を商品にしよう」（原かなた代表）と、子供とアーティストが一緒に絵を描くイベントを実施した。キャンバスは縦12㍍×横12㍍。3歳から小学6年生の合計60人とアーティスト4人が「海」と「空」をテーマに真っ白な空間を彩った。

はじめは自分の絵だけに夢中だった子供とアーティストは、徐々に互いを意識し始めた。アーティストが風を表す渦模様を描けば、子供が隣で同じ模様を連ねた。タコを描けば吸盤を加えた。一方、子供が絵の具を重ねすぎて黒くなった部分にはアーティストが黄色や黄緑といった明るい色の模様を添えた。絵の具と歓声があふれた会場では「言葉でなくてもコミュニケーションが取れた」（同）。

▶だんだん瓶箋

▶プレゼント用の箱

手話で演劇

せりふがすべて手話の演劇がある。福岡ろう劇団博多（同中央区）は、92年に演劇好きの聴覚障害者と手話を学んでいる市民で結成された。聴覚障害者に楽しんでもらうとともに手話という文化の発信を目的とする。

団員は障害者8人、障害者でない聴者5人で主に障害者が舞台に立つ。年齢は27歳から67歳で、仕事を持つ人もいるため稽古は土曜日の夜。公演が近づくと日祝日も行う。

公演は自主公演と、障害者団体やろう学校などから依頼される2種類がある。依頼は多い年で年3回。自主はこれまで8回行った。演目は昔話やオリジナルの現代劇などさまざま。代表作が視覚・聴覚障害者として知られる「ヘレン・ケラー」だ。

手話によるせりふは、稽古を重ねながら団員で話し合い、練り上げていく。聴覚障害と言っても、その程度や手話の習熟度はさまざま。せりふは観客に伝わりやすくすることを第一とし、公演間近に変えることも少なくない。

聴者のため舞台そでからせりふを声で出すことや装置を使って字幕を出すことがある。ただ、タイミングが少しでもずれると、かえって分かりにくくなることがある。そのため細心の注意が必要となる。

手話文化を広く伝えるため、観客の層を広げたい、という。鈴木玲雄代表は「障害者が頑張っているという見方ではなく、作品として見てほしい」と願っている。

▲福岡ろう劇団博多の公演

似顔絵の名刺▶

May I support you?

「優秀な人材が欲しい!」そんな時に
☑オフィス系
☑営業系
☑医療系　等
様々な職種に人材派遣および、正社員・契約社員として即戦力になる人材をご紹介します。

「イベントがしたいけど…」そんな時に
☑イベントの企画立案、実施
☑宣伝物の作成
☑会場設営からブース施工
☑MC、スタッフの派遣
☑運営・管理　等
企画・デザイン・施工・運営、展示物の制作、MC・イベントスタッフの手配まで一貫してお任せください。各種広報物の企画・制作も承ります。

「冠婚葬祭って大変そうだけど」そんな時に
☑パーティ
☑婚礼、葬祭
人生の様々な節目のセレモニーを、信頼と安心でご提供します。

ポータルでは人材派遣のスタッフおよびイベントスタッフを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

IT'S PORTAL

ポータルは九電工のグループ企業として、社会における人材・イベント・セレモニーに関わるさまざまなニーズをサポートし、総合人材サービス企業として「人間力」を「人に・企業に・社会に」ご提供します。

九電工グループ　PORTAL 株式会社ポータル

人材事業／イベント事業／バンケット事業
0120-017-850　☎092-534-6223
〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目23-30
http://www.portal-inc.co.jp